

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000639		
法人名	株式会社アルバ		
事業所名	グループホーム サライ上豊田(ユニット1)		
所在地	愛知県豊田市上原町西山290-6		
自己評価作成日	令和6年3月8日	評価結果市町村受理日	令和6年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&ligvovocd=2393000639-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中川区四女子町1丁目59番地の1		
訪問調査日	令和6年 3月15日・30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【アピールしたい点】職員全員が、自身の自己覚知を認識することで、入居者様一人一人が本意で求める生活のあり方が実現出来るよう、日々援助させて頂いています。入居者様の個別のカンファレンスをこまめに行うことで身体的、心理的の変化に気づき、適切な対応を実施することで、入居者様は、毎日、安心して健康的に笑顔で過ごすことが出来ています。入居者様自身が安心して生活が送れる物的環境、人的環境を整え、いつまでも心と体が元気であって欲しい！と願う職員全員が親身になって対応しています。【力を入れている点】入居者様に対し、ホーム内でも季節感を味わうことが出来るよう、季節を感じる事が出来る飾りを入居者様と一緒に作り飾ったり、旬の食材を使用し、入居者様主体で役割分担した食レクを実施し喜んで頂いています。毎月、入居者様全員参加で職員と一体化したイベントを実施し、入居者様、職員と一緒に盛り上がり楽しみのある生活が送れるよう支援しています。職員自身も入居者様の喜ぶ良い表情が見れることに特別な報酬を得たような様に更なるステップアップを目指し精進して努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊田市の郊外、名鉄(三河線)「上豊田駅」から徒歩5分、自然と交通の便に恵まれた条件に位置している。運営法人(株)アルバは、県内でグループホーム、デーサービス、有料入居ホーム、訪問介護・看護、居宅介護支援等、多くの介護事業を運営している。「GHサライ上豊田」は、そうした経験に基づき、介護現場の声を取り入れ設計されており、明るく広々とした全館バリアフリーの利用しやすい施設となっている。利用者が安心・安全・心と体の健康として毎日午後のレクでは全利用者が参加して歓声が聞こえてくる盛況ぶり。医療提供も自社運営の「訪問看護ステーション」の活用、医療機関との連携を充実させている。基本理念に「笑顔に満ちあふれた ふたつめの家族」を掲げ、その実現に向けての三つの行動指針も掲げ実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である誓いを毎朝唱和し、理念に沿った支援を心掛けている。	基本理念として「笑顔に満ちあふれたふたつめの家族」を、行動指針として「家庭的で、その人らしい穏やかな生活」「地域の中で居心地よく安らげる環境づくり」「一人ひとりの身心の変化にいち早く気づき、安全・安心に暮らせるように」を掲げ、リビングに掲示し、毎朝、これを夜勤者が唱和し、その実践の徹底は職員インタビューで確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の地主様の畑を借り野菜を近所の方と一緒に作りながら交流を図る取り組みを予定していたがコロナ感染予防のため実施出来ていない。	運営方針として、「地域との交流と連携」「地域の中で事業所が孤立することのないような活動」を掲げている。運営法人とは具体的対応を検討している。法人内での感染があり、お預けとなっている。開設時からコロナ禍での行動制限がある中、地域の理容院の方を受け入れ交流や家族の協力での外出など行われている。	開設後、利用者の高齢化が進み、計画した畑作も無理のようである。プランター栽培、お祭りでのおみこしに寄ってもらう、上島自治区サロンへの参加、敷地内の法人施設との交流や自施設への住民招待など身近なところから、取り組まれたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議がコロナ感染予防により中止としていたため、ホーム内での活動状況報告等を書面にて説明し理解して頂けるよう努めていた。コロナの終息時期から運営推進会議を実施し認知症ケアについて公表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防対策のため運営推進会議の開催が中止としていたため入居者ご家族様、地域の方々にホーム内での活動実績を書面にて報告し、意見を頂いたことに対してサービス向上に活かせるよう取り組みを行っている。	運営規程に「運営推進会議の規定及び目的等」を定め、利用者・家族、地域の代表者、市町村等の職員、介護有識者などの参加を定め、隔月の定例開催を続けている。「対面会議」戻したことにより、コロナ感染対応の話からインシデント、認知症ケア、行事の話が活発になってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が窓口となって、事業所内でのイベント等の活動実績、病変時の対応・事故対応等の連絡をとっている。	施設長は、市町村との連携を積極的に目指しその窓口となっている。各種報告書の提出時などを生かし、市の担当窓口とグループホーム運営について、以前はコロナ感染状況報告が主体であったが、認知症ケアの相談など活発に出来るようになった。運営推進会議には行政関係として地域ケアセンター職員が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的虐待や心理的虐待への理解を得るため勉強会のテーマに挙げている。徘徊、転倒リスクの高い方にも個別にカンファレンスを行い拘束をしないケアで対応している。	“身体拘束や暴力行為は絶対禁止”が施設長の信条とのこと。あらゆる介護場面で「拘束や暴力禁止」を前提にした対応を考え行動するよう徹底している。 運営規程に、「緊急やむを得ない事態を除き、介護のあらゆる場面において非拘束対応」を明記している。その実践に向け、「研修や実務」の機会を活用し、継続的に教育と実践がされている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のテーマに挙げ取り組んでいる。上司、部下間の個人的に対話する時間を設けたり、職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境作りに努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様もいるため支援のノウハウを活かし、ご本人の意思を尊重した支援を行っている。成年後見制度について勉強会の際に資料を配布し制度の理解が出来るようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が窓口となり締結・解約を行っている。入居時はご本人やご家族の希望や不安な点をお聞きし、情報を職員へ開示したうえで、どうお迎えするかカンファレンスを行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ホーム便りを送付する際にご家族からのご意見を返送できる用紙を送付している。また、来訪の際に希望を仰って下さるご家族もいる。	利用者の意見・要望等は、日ごろの声掛けや介護の中で把握に努めている。家族の意見等は毎月の「ホーム便り」に、家族意見等を返信できる用紙を同封し、意見等を把握するように努めている。また、最近ケアカルテを活用して利用者の細かな情報を職員全員で共有出来るよう進めている。家族との対面での意見交換の機会が増え家族の意見が聞けるようになってきた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長が社内メールを活用しスタッフからの提案・意見やご家族様からの要望等を毎月1回実施している管理者会議の際に議題として出している。	職員は日常の業務対応の中から、問題点を見つけ、「業務日誌」「ミーティング」などで意見を表明している。施設長は、パート職員など時間に制約がある職員からでも意見が吸収できるよう「メール」も活用し、スタッフ意見等の把握に努めている。今回の職員インタビューでは外国籍及び入社、間もない職員を対象に対面でおこない、新任教育の習熟度や職場の風通し等の良さを確認でき、また肌でも感じ取ることができた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標設定をし、それに伴う評価を行う評価制度システムが導入されており、各自が向上心を持って働けるよう工夫している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の実施、社外研修等を受けることが出来る環境がある。コミュニケーション技法、ホスピタリティ研修等、介護のことだけでなく職員のメンタルヘルスクエアが出来る場を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加、豊田市サービス調整会議に毎月2回出席し他事業所との交流、情報交換を取るようになっている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のインテークの際にご本人の精神状態、心理状況を親身に聞き取り、不安を軽減出来るよう努めている。面会の希望があった際は記録に残し職員が周知できる体制を作っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居手続き時、ご家族が困っていることや不安に思うことはないか必ずお聞きしている。また、入居前に密に連絡を取り関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に入居前の生活環境、生活スタイル等の情報収集を行い、必要とされるサービス内容を検討し支援に繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の主体性を尊重したケアを心掛けています。本人がこれまで行ってきていた家事を今後も続けて行って頂くことでQOLが下がらないよう支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪された際に日頃の様子を報告したり、月に一度文書で近況報告をする。他、本人の体調に変化があった際はその日のうちに連絡を行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分な感染予防対策を実施しながら家族以外の友人が来訪された際は、受け入れご利用者との関係が途切れず続くよう支援している。	利用者は、豊田市及び近隣の方が多く、親戚・知人等との交流が気楽に出来る状況下にあるため、面会希望は多い。認知症の進行防止には、「人間関係の継続」は、重要なので、現在では友人は事務所内、家族は利用者のお部屋にて面会出来るようになった。またその折、家族と利用者が一緒に外出して馴染みの場所や喫茶店に出向くなど平常に戻りつつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝行う体操、午後から行うレクリエーションは全員参加で関わり合いが持てる環境である。季節行事や誕生日会で交流する機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀に参加させて頂いたり、退去後にご利用中の様子を写真にまとめアルバムにして送らせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活に対する意向は介護計画書の更新の度、アセスメントしニーズを取りこぼさないようにしている。	家族・知人等からの情報を整理し、利用者との何気ない会話やふれあいの中から、気づいた「話題」や「趣味・趣向」「行動特性」などをこまめに記録している。そうしたことから、「話題」や「特技」「趣味」などを見つけ、介護計画に生かしている。現在では塗り絵、編み物、パターゴルフセットなど持込があり、他の利用者の意向があれば意向に沿えるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報収集の把握に努め、これまでの生活歴を考慮し主体性を持ったケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことよりもできる事に焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日介護計画書が実施できるよう目標を決めて行っている。モニタリングはその実地内容なども考慮し行っている。	原則6か月毎に計画の見直しを行い、利用者ごとに、かかりつけ医や看護師の意見を聞き、職員・ユニット責任者・計画作成者などで話し合い、利用者の状況及び家族の要望なども取り入れて計画作成・見直しを進めている。また、「現状に即した介護の実施」をめざし、身体状況等の急変等には速やかにケアカルテに音声入力し職員間で共有、計画変更にも対応出来るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、ケース記録が主となっているが、職員間で声を掛け合い情報の把握、共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が気軽に出入りできる雰囲気作りに努めている。また、写真やお便りで様子をお知らせしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で理美容のための外出が厳しい状況の中、地域の美容院の方が定期的にボランティアで入居者のヘアカットに来訪して下さりご協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療との連携がある。24時間の緊急体制も確保できている。	入所前からの専門医でないと見れない病状の利用者には、利用者・家族同意のもと管理者がつきそって受診している。受診の結果は、家族・成年後見人・協力医療機関に報告している 歯科医受診抜歯時には、家族が付き添い受診している。然し利用者の多くは、通院利用が便利で24時間の緊急体制確保等施設の協力医療機関の「日進在宅クリニック」を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している訪問看護ステーション泉公園による2週に1回の健康管理を受けている。特変があった場合は電話連絡で情報伝達し対応方法の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関と連携をし、情報が途切れないよう努めている。入退院の際には、介護サマリー、診療情報提供書、看護サマリーの送付にて状態がわかるよう病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご家族から確認し、文書を交わしている。終末期には、日進在宅クリニック主治医よりご家族に看取りの説明を行い同意を交わしている。	入所時にターミナルケアについて利用者・家族に説明し理解を得ている。契約とは別に「看取り」の確認書も作成している。重度化した場合は、改めて家族や日進在宅クリニックの主治医と話し合いを持ち終末期の方針の決定を行っている。自宅で最後を迎えたいと利用者からの希望があり「日進在宅クリニック」訪問看護、訪問介護、訪問医が連携して温かい対応のうえ看取りを支援している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日進在宅クリニックの主治医や訪問看護ステーション泉公園より予測される急変の際の対処方法を事前に確認し、全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練行っている。訓練の際に避難経路の確保、再認識に努めている。	運営規程に「非常災害対策」の基本骨子を定めそれに基づき対応を進めている。避難訓練を年2回行い各種災害について色々なケースを想定し職員の役割分担などの体制整備を進めている。年に2回 業者に 火災報知器・消火器とスプリンクラー等の 検査を依頼しそれを消防署に報告している。備蓄は 食料と水を 20人、2週間分準備している	災害時には事業所のみで対応できないことが多々あるので、地域の方の参加をお願いして、近隣同法人施設の参加や近隣の関連機関や住民の参加など取り入れた、防災訓練を企画されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき個人を尊重し尊厳を守ることを心掛けた声かけを行っている。	基本理念である「笑顔に満ちあふれたふたつめの家族」づくりを目指し3つの行動指針である「穏やかな生活の確保」居心地よく安らげる環境づくり」「安全・安心に配慮した暮らしの支援」を重視した介護を目指している。職員は、居室入室時には本人の理解を得てノックし着替えにも利用者のペースにあった声かけや本人の名前に「さん」を付けて呼び利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺うことの他に、選択が困難な方には選択肢を絞り自己決定できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望が聞かれた際は、スケジュール組をするなどし、ご本人の思いが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髭剃りを行ったり、整容を行っている。また、定期的に美容師が来訪しヘアカットをしている。その日の衣服は本人に相談しながら準備をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり盛り付けを職員と一緒にしている。食事メニューを見える所に貼って食事への楽しみを持って頂けるよう工夫している。	業者に依頼したメニューと材料を基に毎日職員と利用者が協力して盛り付け 配膳など食事の基本スタイルを維持している。誕生日会や 行事食もあり 利用者と共に ケーキ作りや 恵方巻や ちらし寿司を作り食事を楽しむ工夫を続けている。栄養管理は 業者が行い利用者各々の食事は 職員が 留意・対応している。食事メニューを キッチンの見やすいところに貼るなど 食事の楽しみを増す工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算や水分量をチェックしながら目標水分量や栄養を満たせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している他、定期的 に提携している小島歯科に健診にきてもらい 清潔保持を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便のコントロール剤や食生活の見直し、一定のリズムで排泄が出来るよう支援している。尿意、便意の曖昧な方は声かけし定時誘導を実施している。	利用者の「排泄チェック表」を作成し、個々の状況にあわせ薬の使用や食生活の見直しを行ない排泄の自立に向けた支援を実施している。個々の利用者の排泄のリズムや特性などに配慮し、さりげない定期誘導や声かけで対応している。利用者の中には入所してから 昼間自立に近づかれた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスよく食事を摂って頂いたり、水分をしっかりと摂るよう促したり、日常的に運動を取り入れるよう支援している。便秘症の方には、排便コントロール剤を使用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のタイミングで入浴できるよう、無理強い はしていない。入浴が不可能な方は清拭 対応し支援している。週に2回を目安に入浴 の回数の増加を図っている。	施設には、個浴が1階、2階各階毎にあり、なるべく利用者が入浴したい時間帯の希望に沿えるよう出来る限り対応している。又一人ひとりの風呂の湯の入れ替えを実施し入浴が不可能な時は「清拭」で対応し清潔に心がけ原則週2回のペースの入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人に合った居室の空調を整え 気持ちよく休まれるよう管理する。日中の活動量を増やし、寝つきが悪い方には個別に対応するなどして十分に睡眠が取れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を各ユニットで保管し常時確認できる体制がある。内服薬、外用薬に変更があった際は業務日誌に記載し全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いすることなく本人自身が自分の役割として掃除、調理、洗濯等を職員と一緒に 行っている。毎月手作りのおやつをみんなで作って喜ばれている。誕生日会も毎月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策のため外出の機会を提供することが困難な状況が続いている。個人的に自宅に帰られる際は安全な外出が出来るよう援助している。外出はホームの周辺のお散歩を行っている。	施設開設時には、コロナ禍の為予定していた外出も実施する事が困難であった。数名の利用者は、家族と外出され外食等も楽しんでいる。散歩は事業所の周辺を30分位5名ずつ時間をずらし実施している。又ゴミ捨て時に手伝ってくれる利用者と一緒に少し散歩をしている。コロナが少し落ち着いてきているので予定していた認知症カフェの参加も検討したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある入居者様に関してはご家族と相談上所持して頂いている。金銭管理が困難な入居者様はホーム内金庫にて保管している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話を掛けたり、ご家族から掛かってきた際にご本人と代わりお話し頂く機会がある。電話を居室におかれているご利用者様もおり、ご自分で電話をかけられる環境がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気や、こまめな居室の清掃、トイレ掃除を実施し匂いへの配慮を工夫している。また、四季に合わせ装飾物などを変え季節感を味わえるよう努めている。	法人は、高齢者施設を多く設置・運営してきた経験を基に現場の声を取り入れ建築設計の段階からデザイナーが設計し「明るく快適な生活空間の維持」「全館バリアフリー」などを考慮して建てられている。また定期的な換気や個室トイレ掃除を実施し明るくて清潔な環境に配慮している。季節感を出すために利用者と一緒に折り紙を作り、四季折々の飾りつけなどにも工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ長く入られている際はフロアへお誘いするなど孤立しないよう配慮している。気の合う入居者様同士、同じテーブルに座って頂き会話ができるよう席の配置に配慮する環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前使っていた家具や仏壇などを持参して頂き、安心して心地よく暮らせる工夫をしている。	各居室には「表札」が掲げられ自室がわかるよう工夫されている。部屋には、自宅で使用していた馴染みの品や家具・手回り品・仏壇などの持ち込みがなされ利用者毎に自分らしい居室空間が構成されている。又持ち込みの制限はしていない。パターゴルフを持ち込まれた方がおりそれを利用者と共に楽しんでいる。着替えは、毎回洗濯して快適に過ごせるよう心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設け、居室が分かるように工夫している。また、トイレの扉に分かりやすく大きくトイレのマークを貼るなどし、迷わずトイレへ迎えるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000639		
法人名	株式会社アルバ		
事業所名	グループホーム サライ上豊田(ユニット2)		
所在地	愛知県豊田市上原町西山290-6		
自己評価作成日	令和6年3月8日	評価結果市町村受理日	令和6年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokkensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&ligvosyoCd=2393000639-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター
所在地	愛知県名古屋市中川区四女子町1丁目59番地の1
訪問調査日	令和6年 3月15日・30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【アピールしたい点】職員全員が、自身の自己覚知を認識することで、入居者様一人一人が本意で求める生活のあり方が実現出来るよう、日々援助させて頂いています。入居者様の個別のカンファレンスをこまめに行うことで身体的、心理的の変化に気づき、適切な対応を実施することで、入居者様は、毎日、安心して健康的に笑顔で過ごすことが出来ています。入居者様自身が安心して生活が送れる物的環境、人的環境を整え、いつまでも心と体が元気であつて欲しい!と願ひ職員全員が親身になって対応しています。
 【力を入れている点】入居者様に対し、ホーム内でも季節感を味わうことが出来るよう、季節を感じる事が出来る飾りを入居者様と一緒に作り飾ったり、旬の食材を使用し、入居者様主体で役割分担した

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である誓いを毎朝唱和し、理念に沿った支援を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の地主様の畑を借り野菜を近所の方と一緒に作りながら交流を図る取り組みを予定していたがコロナ感染予防のため実施出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議がコロナ感染予防により中止としていたため、ホーム内での活動状況報告等を書面にて説明し理解して頂けるよう努めていた。コロナの終息時期から運営推進会議を実施し認知症ケアについて公表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防対策のため運営推進会議の開催が中止としていたため入居者ご家族様、地域の方々にホーム内での活動実績を書面にて報告し、意見を頂いたことに対してサービス向上に活かせるよう取り組みを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が窓口となって、事業所内でのイベント等の活動実績、病変時の対応・事故対応等の連絡をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的虐待や心理的虐待への理解を得るため勉強会のテーマに挙げている。徘徊、転倒リスクの高い方にも個別にカンファレンスを行い拘束をしないケアで対応している。		
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のテーマに挙げ取り組んでいる。上司、部下間の個人的に対話する時間を設けたり、職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様もいるため支援のノウハウを活かし、ご本人の意思を尊重した支援を行っている。成年後見制度について勉強会の際に資料を配布し制度の理解が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が窓口となり締結・解約を行っている。入居時はご本人やご家族の希望や不安な点をお聞きし、情報を職員へ開示したうえで、どうお迎えするかカンファレンスを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ホーム便りを送付する際にご家族からのご意見を返送できる用紙を送付している。また、来訪に際に希望を仰って下さるご家族もいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長が社内メールを活用しスタッフからの提案・意見やご家族様からの要望等を毎月1回実施している管理者会議の際に議題として出している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標設定をし、それに伴う評価を行う評価制度システムが導入されており、各自が向上心を持って働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の実施、社外研修等を受けることが出来る環境がある。コミュニケーション技法、ホスピタリティ研修等、介護のことだけでなく職員のメンタルヘルスケアが出来る場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加、豊田市サービス調整会議に毎月2回出席し他事業所との交流、情報交換を取るようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のインテークの際にご本人の精神状態、心理状況を親身に聞き取り、不安を軽減出来るよう努めている。面会の希望があった際は記録に残し職員が周知できる体制を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居手続き時、ご家族が困っていることや不安に思うことはないか必ずお聞きしている。また、入居前に密に連絡を取り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に入居前の生活環境、生活スタイル等の情報収集を行い、必要とされるサービス内容を検討し支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の主体性を尊重したケアを心掛けています。本人がこれまで行ってきた家事を今後も続けて行って頂くことでQOLが下がらないよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪された際に日頃の様子を報告したり、月に一度文書で近況報告をする。他、本人の体調に変化があった際はその日のうちに連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分な感染予防対策を実施しながら家族以外の友人が来訪された際は、受け入れご利用者との関係が途切れず続くよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝行う体操、午後から行うレクリエーションは全員参加で関わり合いが持てる環境である。季節行事や誕生日会で交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀に参加させて頂いたり、退去後にご利用中の様子を写真にまとめアルバムにして送らせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活に対する意向は介護計画書の更新の度、アセスメントしニーズを取りこぼさないようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報収集の把握に努め、これまでの生活歴を考慮し主体性を持ったケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことよりもできる事に焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日介護計画書が実施できるよう目標を決めて行っている。モニタリングはその実地内容なども考慮し行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、ケース記録が主となっているが、職員間で声を掛け合い情報の把握、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が気軽に入出りできる雰囲気作りに努めている。また、写真やお便りで様子をお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で理美容のための外出が厳しい状況の中、地域の美容院の方が定期的にボランティアで入居者のヘアカットに来訪して下さりご協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療との連携がある。24時間の緊急体制も確保できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している訪問看護ステーション泉公園による2週に1回の健康管理を受けている。特変があった場合は電話連絡で情報伝達し対応方法の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関と連携をし、情報が途切れないよう努めている。入退院の際には、介護サマリー、診療情報提供書、看護サマリーの送付にて状態がわかるよう病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご家族から確認し、文書を交わしている。終末期には、日進在宅クリニック主治医よりご家族に看取りの説明を行い同意を交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日進在宅クリニックの主治医や訪問看護ステーション泉公園より予測される急変の際の対処方法を事前に確認し、全職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練行っている。訓練の際に避難経路の確保、再認識に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき個人を尊重し尊厳を守ることを心掛けた声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺うことの他に、選択が困難な方には選択肢を絞り自己決定できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望が聞かれた際は、スケジュール組をするなどし、ご本人の思いが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髭剃りを行ったり、整容を行っている。また、定期的に美容師が来訪しヘアカットをしている。その日の衣服は本人に相談しながら準備をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり盛り付けを職員と一緒にしている。食事メニューを見える所に貼って食事への楽しみを持って頂けるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算や水分量をチェックしながら目標水分量や栄養を満たせるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している他、定期的に提携している小島歯科に健診にきてもらい清潔保持を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便のコントロール剤や食生活の見直し、一定のリズムで排泄が出来るよう支援している。尿意、便意の曖昧な方は声かけし定時誘導を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスよく食事を摂って頂いたり、水分をしっかりと摂るよう促したり、日常的に運動を取り入れるよう支援している。便秘症の方には、排便コントロール剤を使用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のタイミングで入浴できるよう、無理強いはしていない。入浴が不可能な方は清拭対応し支援している。週に2回を目安に入浴の回数の増加を図っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人に合った居室の空調を整え気持ちよく休まれるよう管理する。日中の活動量を増やし、寝つきが悪い方には個別に対話するなどして十分に睡眠が取れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を各ユニットで保管し常時確認できる体制がある。内服薬、外用薬に変更があった際は業務日誌に記載し全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いすることなく本人自身が自分の役割として掃除、調理、洗濯等を職員と一緒にやっている。毎月手作りのおやつをみんなで作って喜ばれている。誕生日会も毎月行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策のため外出の機会を提供することが困難な状況が続いている。個人的に自宅に帰られる際は安全な外出が出来るよう援助している。外出はホームの周辺のお散歩を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある入居者様に関してはご家族と相談上所持して頂いている。金銭管理が困難な入居者様はホーム内金庫にて保管している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話を掛けたり、ご家族から掛かってきた際にご本人と代わりお話し頂く機会がある。電話を居室におかれているご利用者様もおり、ご自分で電話をかけられる環境がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気や、こまめな居室の清掃、トイレ掃除を実施し匂いへの配慮を工夫している。また、四季に合わせて装飾物などを換え季節感を味わえるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ長く入られている際はフロアへお誘いするなど孤立しないよう配慮している。気の合う入居者様同士、同じテーブルに座って頂き会話ができるよう席の配置に配慮する環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前使っていた家具や仏壇などを持参して頂き、安心して心地よく暮らせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設け、居室が分かるように工夫している。また、トイレの扉に分かりやすく大きくトイレのマークを貼るなどし、迷わずトイレへ迎えるよう工夫している。		